

大垣市長の施政方針

平成18年第1回下野市議会定例会が、3月8日(水)に開会され、冒頭で大垣市長が次のとおり施政方針を述べました。

平成18年第1回下野市定例議会の開会にあたりまして、施政運営に対する所信を申し上げます。

1月10日に南河内町、石橋町、国分寺町3町が合併して「下野市」が誕生して、まもなく2ヶ月になります。

不安の中での船出でありましたが、議員の皆様をはじめ市民の皆様のご支援、ご協力によりまして、トラブルもなく、どうにか今日まで至ることができましたことにつきまして、心から感謝申し上げます。

さて、地方財政をとりまく環境は依然として厳しい状況の中にあります。国の進める三位一体改革も最終年を向かえ、税源移譲の代わりに地方交付税の見直し削減や、児童手当の拡充に伴う地方の持ち出し増など、刻々と変化する社会経済情勢に対しても柔軟な対応が求められております。

このような中で、この下野市は、「思いやりと交流で創る 新 生文化都市」を目指してスタートした訳でございます。

市民と行政、そして議会と手を携えて協働による安心して暮らせるまち、合併してよかったです実感できるまちを作り上げていきたい、と考えております。

また、今後の新しいまちづくりの基本理念となる、自治基本条例や新市総合計画に早急に着手したいと思っております。

すでに新しい年を迎えてから2カ月余りが過ぎましたが、最近の経済情勢は少しずつ回復傾向にあり、夏場から秋にかけては、更によくなるものと期待しているところであります。

先の下野市長選におきましては、市民の皆様様の温かいご支援を賜り、無競争により初代市長に就任させていただきました。これにおこるごことなく、市民の皆様様の声には十分耳を傾け

て、民意を反映した市政運営に取り組んでまいりる所存でございます。

これからの施政方針について若干申し上げさせていただきます。

一 早く旧3町の垣根を取り除き、一体感を深めることでありませぬ。

3町は昔から市民も行政も密接な関係にあり、市民の多くが姻戚で結ばれているわけでありませぬので、6万市民の融和と融合を図り一体感を深めることと思っております。

それには、旧3町で行われていたイベント、祭りなどを市全体のものに育てていかなければなりません。また、将来の夢、希望を託した市民憲章や、市の花、木、鳥などを公募して、みんな考えていると思っております。

二 次は行財政改革についてであります。

先ほど申し上げましたとおり、まだまだ地方財政は厳しい状況でございます。同規模の自治体が合併したため、同じような公共施設が3つあるものもありません。施設の設置目的を十分に踏まえ、統合すべきもの、そうでないものの議論を重ね、十分に整理し、スクラップアンドビルド、既存施設との役割分担、地域バランス、将来の財政負担などを明確にし、住民参画による十分な検討を行ったうえで、

行政全般のスリム化を図ってまいりたいと考えております。古代中国のことわざ「入るを量りて、出するを為す」という言葉があります。これは、私のモットーでありまして、健全財政に心がけ、「無いときの辛抱、ある時の儉約」、不要不急の事業を見直して経費の節減に努めるとともに事業の取捨選択に取り組み決意であります。

更に、指定管理者制度を導入して、民間にできるものは極力民間に委託しなければならぬと思っております。職員は退職者の約40%補充にとどめ、自然減による人件費の削減に努めたい

と考えております。また、庁舎等の清掃につきまして、職員ができるところは自分たちで行い、職員自ら、歳出削減の一部を担ってほしいと思っております。

三 教育文化についてであります。

昔、日本は、世界一安全で義理堅く、親孝行の国といわれておりました。

しかし、今は、世界一治安の悪い国になってしまいました。加えて、人としての倫理・道徳観はどうなってしまうのでしょうか。

今求められているのは、勉強のできる子、力の強い子も必要であります。人の痛みがわかる、人に優しい思いやりのある子どもを育てることです。それには、家族や家庭が中心的役割を担うのは当然であります。学校、地域、行政が手を携えて、人に優しい子を育てなければならぬと思っております。

安全・安心な教育環境の整備、小中学校の耐震診断調査・補強工事、歩道の整備及び防犯体制の確立に地域の人たちとともに取り組んでまいります。また、国指定史跡の下野薬師